

SHIMOSAKAMOTO LAKE CITY COMMUNICATION  
**下阪本湖都通信** 第12号  
 令和3年6月15日

—— 地域の力 絆深めて 住みよい下阪本 ——

発行 : 下阪本自治連合会 大津市下阪本三丁目 14 番 30 号  
 発行者: 会長 三田光夫 下阪本市民センター 077-578-0017  
 編集 : 下阪本湖都通信編集部



**「まちづくり協議会」立ち上げに向けて その3**

去る1月28日に「下阪本学区まちづくり協議会設立準備会(以下『準備会』という)」の立ち上げ、第1回準備会を2月21日に、第2回準備会を3月21日に開催いたしました。しかしながら、4月25日に予定していた第3回準備会は、新型コロナウイルス拡大防止のために延期をやむなくされました。

そこで、本号では準備会の役割とこれまでの協議内容等について報告します。まず、準備会構成員(その1)は23名で、各種団体および各機関の代表から構成されています。さらに準備会構成員(その2)は33名で、その内訳は事業所等が12団体、個人会員21名から構成されています。準備会では、構成員(その2)が協議を重ね「下阪本学区まちづくり協議会」立ち上げに向けた素案作りの作業を行っています。

第1回準備会では、第1の議題として「下阪本学区まちづくり協議会」設立に向けた趣旨説明等を行った後、4つのグループに分かれて協議を行いました。討議の柱は、「下阪本学区の現状と課題について」と「課題解決の方策について」です。まず、「自治会加入率の低下(37%)」の指摘がなされ、その原因として、①「自治会活動の情報がない」、②「自治会に入るメリットがない」、③「新しく下阪本学区に来られた方々を迎える環境が整っていない」、④「役が回ってくるので自治会を退会したり、入会されない」等といった意見が出されました。そうした課題に対して、情報発信(H Pなど)をしっかり行うとともに、自治会加入の受け皿を早急に作り、新旧住民の交流を拡大・促進していくことが不可欠であるとの結論に達しました。

次に、「防災」と「下阪本学区の活性化」について話し合いました。防災の強化については誰もが認めるところで、①「どのように防災意識を高めていくか」、②「自治連合会だけでなく、まちづくり協議会でも『防災』を柱の一つにしていく必要があるのでは」といった意見が出され、準備会で引き続き検討することにしました。さらに、下阪本学区の活性化に触れて、①「自治会加入・未加入関係なく、多くの人が参加して楽しめる行事やイベントを実施しては」、②「下阪本は歴史を掘り起こし、多くの人に下阪本に愛着を持っていただけるような企画をしては」といった意見が出され、これも準備会で検討することにしました。

第2回準備会では、「地域を活性化したい、いいアイデアはないか」というテーマでグループ協議をしました。まず、防災については、①「児童を中心に保護者とともに体験学習を行い、防災意識を高め、防災に強いまちづくりを目指しては」、②「自治会加入・未加入に関わらず、実施できないか」、③「かまどベンチ(小学校に設置される予定)を活用できないか」といった意見が出されました。次に、下阪本学区の活性化については、①「秋まつりを充実させて参加者全員が楽しめるイベントを実施しては」、②「現在、公民館は市が管理していて制約があるが、支所がコミセン化すればいろんなことができるのでは」、③「ハロウィンやウォークラリーなど下阪本を実際に歩いてみては」等、意見が出ました。また、その他に、①「子育て支援の充実」、②「高齢者が気楽に集まれるサロンの開設」、③「中・高・大学生にボランティアとして参加してもらい、『人づくり』の中心になってもらえないか」等の意見が出されました。

今まで準備会で話し合ってきたことやこれから話し合っていくことを「下阪本まちづくり協議会」の立ち上げに生かし、『防災に強いまちづくり』『にぎわいづくり』『人づくり』に反映させたいと考えています。下阪本学区の皆さま、ご理解・ご支援お願いいたします。

**「下阪本学区まちづくり協議会設立準備会」HPを開設しました**

<https://shimosaka-machikyo.net/>



- ・下阪本のまち ・イベント ・湖都通信
- ・防災 ・各種団体 ・リンク
- ・下阪本Q & A ・お問い合わせ



皆さん一度「下阪本学区まちづくり協議会設立準備会」HPをご覧ください。

**古より栄えた下阪本 その2 【門前町として栄えたころ】**

東坂本(坂本)・浜坂本(下阪本・比叡辻)は、昔から延暦寺や日吉大社とその盛衰をともにしてきました。すなわち、延暦寺の守護神が日吉大社であり、守護寺が東南寺であります。そして、延暦寺を守るため、東南寺には役人がいて、湖上・陸上の交通を取りしまっていたといい、比叡山、東坂本、浜坂本は常に一体の存在であったと言われています。



また、鎌倉時代の中頃から、「寺座」、「宮座」といった大きな寺や神社が特別に許可した同業者の組合ができ、浜坂本にもそうした商人・職人が住み着いていたと言われています。資料によりますと、今の坂本・下阪本・穴太にかけて、戸数約15,000軒、人口約6万人ぐらいだったと伝えられています。

ちなみに、現在、坂本・下阪本・穴太の人口は25,000人ほどですが、当時の人口が6万人だったとすれば、大都会であります。当時、京都の人口は約20数万人で、坂本・下阪本・穴太の人口は全国でもベスト8に入るそうです。当時如何に、東坂本・浜坂本が栄えていたかを物語っています。

「しもさかもと」(大津市立下阪本小学校発行)を参照

**\* しもさかもと再発見 — 湖都彩々 — ⑩ \* 壮麗坂本城**

四季折々に変化する美しい下阪本の風景をもとに作成した坂本城のイメージ写真です。曙の風景と夕刻の風景を使用して作成した坂本城イメージ写真です。



坂本城址公園より昇る朝日を背景にした坂本城詳細イメージ写真です。



四谷川下流域から夕刻の志津浜を撮影し、湖側から見た城をイメージしています。